

BR1250 2019年1月の無償 Java サポート終了の対応について

■概要

Oracle 社から提供されている JRE8 (Java Runtime Environment) のサポート終了が予定されています。下記記載の BR1250 対象ソフトウェアは JRE8 を利用しているため、Java の移行が必要です。

また、Java の移行に伴って、クライアント環境と管理サーバ環境の iStorageManager の移行が必要となります。本コンテンツの内容をご確認いただき、移行方法をご検討ください。

■重要性

重要

■影響範囲

ご利用中の全ての BR1250 が対象となります。

■対象ソフトウェア

- WebSAM iStorageManager Suite (V9.7 以前)
- iStorageManager Express (V9.7 以前)

■Oracle 社の対応

Java リリース・モデル変更に伴い、無償の JRE8 は 2019 年 1 月にサポート終了が予定されています。サポート終了後は、セキュリティ脆弱性などに対応するアップデートパッチは提供されなくなります。

■BR1250 の対応方針

今後リリースする WebSAM iStorageManager Suite では、2019 年 1 月以降もサポートが継続される OpenJDK と Oracle Java をサポートします。

いずれかに移行をお願いします。

OpenJDK

- OpenJDK 11 以降 ※1

Oracle Java

- Oracle Java SE 11 LTS ※2
- Oracle Java SE 8 LTS ※2

※1 無償でご利用いただけます。

6 ヶ月ごとに、OpenJDK のメジャーアップデートが必要となります。

※2 Oracle 社との有償のサポート契約を結ぶことでご利用いただけます。

Java の移行に伴って、クライアント環境と管理サーバ環境の iStorageManager の移行が必要となります。

詳細は「別紙」をご参照のうえ、採用する Java の決定・構成の変更をご検討ください。

■Java の提供方法について

WebSAM iStorageManager Suite (V10.2 以降) の製品の媒体には、OpenJDK11 を添付します。また、WebSAM iStorageManager Suite (V10.2 以降) と合わせて、ダウンロードサイトにアップします。

インストール方法は、V10.2 以降の「WebSAM iStorageManager インストールガイド」をご参照ください。

Oracle Java SE 11 LTS、および Oracle Java SE 8 LTS をご利用になる場合は、お客様ご自身で、Oracle 社とのサポート契約、および入手をお願いします。

■iStorageManager の提供方法について

移行対象の WebSAM iStorageManager Suite (V10.2) については、2019 年 1 月末にリリースを予定しています。2019 年 2 月以降に出荷される BR1250 装置に製品添付されます。

合わせて、WebSAM iStorageManager Suite (V10.2) をダウンロードサイトへ掲載しますので、ダウンロードの上、インストールをお願いします。

■更新情報

2019 年 1 月 11 日 この情報ページを掲載しました。

以上

「別紙」

■2019年1月の無償 Java サポート終了について

BR1250 の管理ソフトウェアである iSM (WebSAM iStorageManager Suite および iStorageManager Express) では、Oracle 社提供の Java 実行環境 JRE8 (Java Runtime Environment) を利用しています。

従来より、Oracle 社提供の無償 JRE8 をサポートしておりましたが、Oracle 社の Java リリース・モデル変更により、2019年1月に無償 JRE8 のサポート終了が予定されております。

サポート終了後は、セキュリティ脆弱性などに対応するアップデートパッチは提供されません。

また、2019年3月末に Java の機能(Applet)が削除される予定です。これに伴い、iSM クライアントはブラウザ上からの起動ができなくなります。

※本資料で示す Java のサポート停止、およびリリース時期は、Oracle 社の方針により変更となる可能性があります。

■お客様への依頼事項

お客様は以下の対応をお願いします。

- 2019年1月以降もサポートが継続される Oracle Java または OpenJDK への移行をお願いします。
- Oracle Java を利用される場合は Oracle 社とのサポート契約をお願いします。
- WebSAM iStorageManager Suite (WebSAM iSM) をご利用の場合は、バージョンアップ (V10.2 以降) をお願いします。
- iStorageManager Express (iSM Express) をご利用の場合は、WebSAM iStorageManager Suite (WebSAM iSM) V10.2 以降 利用の運用に変更をお願いします。

■iStorage ControlCommand について

- iStorage ControlCommand は、V10.2 から WebSAM iSM のインストーラに統合されましたので、WebSAM iSM と合わせてアップデートされます。

■移行対象の Java について

JRE8 のサポート終了後は以下の3種類の Java をサポートします。

OpenJDK11 以降	無償の Java 実行・開発環境。 無償でご利用いただけますが、サポート期間が最短で6か月です。 2018年9月に OpenJDK11 がリリースされました。 その後、6か月ごとにアップデート版がリリースされる予定のため、アップデート版へのアップデートが必要になります。
Java11 (LTS)	Oracle Java SE 11。 Oracle 社とのサポート契約が必要ですが、LTS によりサポート期間は最長で2026年9月までです。
Java8 (LTS)	Oracle Java SE 8。 Oracle 社とのサポート契約が必要ですが、LTS によりサポート期間は2025年3月までです。

※この資料では、「Java11」表記は、OpenJDK11 以降および Java11 (LTS) の実行環境を指します。

■移行対象の Java のメリット/デメリット比較

推奨	利用する Java	メリット	デメリット
○	OpenJDK11 以降	<ul style="list-style-type: none"> ・無償 	<ul style="list-style-type: none"> ・半年ごとに OpenJDK メジャーアップデートが必要 (11→12→13→…) ・OpenJDK12 以降へのメジャーアップデートに伴って、OpenJDK アップデートによる非互換があった場合、iSM クライアントのアップデートが必要 ・ブラウザからの iSM の利用ができなくなるため、iSM クライアント V10.2 以降のインストールが必要
○	Java11 (LTS)	<ul style="list-style-type: none"> ・2026 年 9 月まで、Java メジャーアップデート不要 ・セキュリティ脆弱性などのアップデートパッチによる変更のみ。Java の機能追加は無し。OpenJDK より安定の見込 	<ul style="list-style-type: none"> ・Oracle 社とのサポートが契約が必要 ・ブラウザからの iSM クライアントの利用ができなくなるため、iSM クライアント V10.2 以降のインストールが必要
○	Java8 (LTS)	<ul style="list-style-type: none"> ・2025 年 3 月まで、Java メジャーアップデート不要 ・セキュリティ脆弱性などのアップデートパッチによる変更のみ。Java の機能追加は無し。OpenJDK より安定の見込 ・環境の変更が最も少ない ・クライアント PC は 32Bit OS でも動く 	<ul style="list-style-type: none"> ・Oracle 社とのサポートが契約が必要 ・サポート終了時期は 2025 年 3 月。その後、最新の Java へ移行が必要 (64bit のみ) ・ブラウザによる iSM Express の起動は、2019 年 4 月で利用不可になる見込みであるため、iSM クライアント V10.2 以降のインストールが必要
×	サポート終了後の Java ※	<ul style="list-style-type: none"> ・運用変更なし ・無償 	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ脆弱性などに対応するアップデートパッチは提供されない

○：推奨 ×：推奨しない

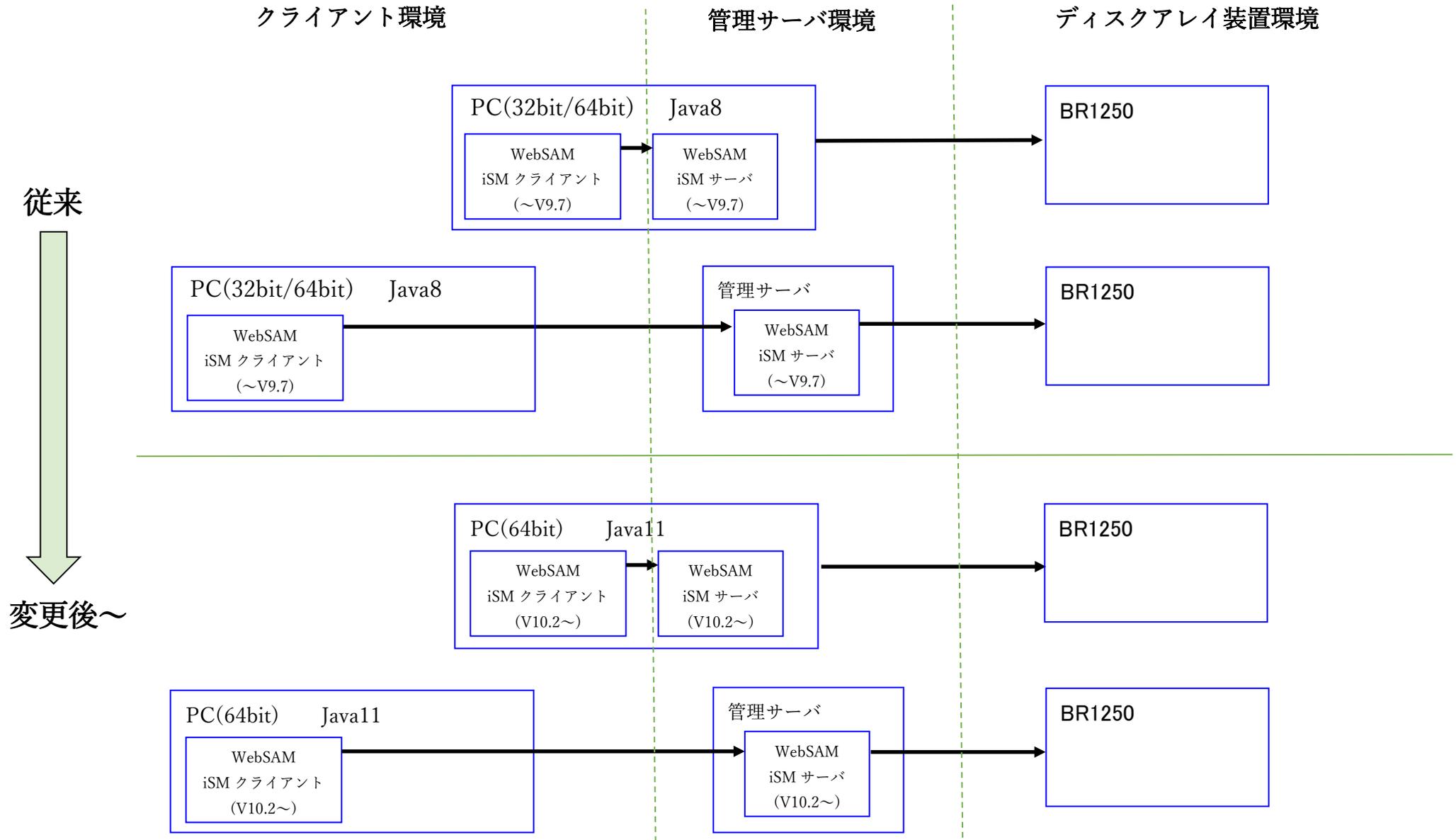
※サポート終了後の Java をご利用の場合も、PP サポート契約の範囲で製品に対するサポートを行います。
ただし、Java に起因する問題の場合は、Java のバージョンアップをお願いする可能性があります。

■導入する Java とお客様の対応

導入する Java によって以下の対応が必要となります。

Java			お客様に必ずご実施いただく作業	iSM クライアントの起動方式	
バージョン	費用	サポート終了時期		～V9.7 (従来)	V10.2～ (新規)
OpenJDK11 以降	無償	OpenJDK11 は、2019 年 3 月サポート終了。 6 ヶ月ごとに新しいバージョンがリリースされ、前バージョンはサポート終了	<ul style="list-style-type: none"> 64bit OS の導入 OpenJDK のインストール 半年ごとに OpenJDK アップデート WebSAM iSM 運用の場合、V10.2 以降にアップデート iSM Express 運用の場合、WebSAM iSM V10.2 以降のインストール 	未サポート	iSM クライアント V10.2 以降のインストール。 iSM アイコンをクリックして起動。
Java11 (LTS)	Oracle 社とのサポート契約	2026 年 9 月	<ul style="list-style-type: none"> 64bit OS の導入 Java11 (LTS) の契約とインストール WebSAM iSM 運用の場合、V10.2 以降にアップデート iSM Express 運用の場合、WebSAM iSM V10.2 以降のインストール 	未サポート	iSM クライアント V10.2 以降のインストール。 iSM アイコンをクリックして起動。
Java8 (LTS)	Oracle 社とのサポート契約	2025 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> Java8 (LTS) の契約とインストール WebSAM iSM 運用の場合、V10.2 以降にアップデート iSM Express 運用の場合、WebSAM iSM V10.2 以降のインストール 	未サポート	iSM クライアント V10.2 以降のインストール。 iSM アイコンをクリックして起動。
Java8 (無償)	無償	2019 年 1 月	—	ブラウザから起動	iSM クライアント V10.2 以降のインストール。 iSM アイコンをクリックして起動。

■Java11の導入イメージ (WebSAM iSMで運用)



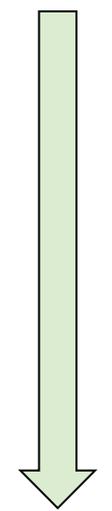
■Java8(LTS)の導入イメージ (WebSAM iSMで運用)

クライアント環境

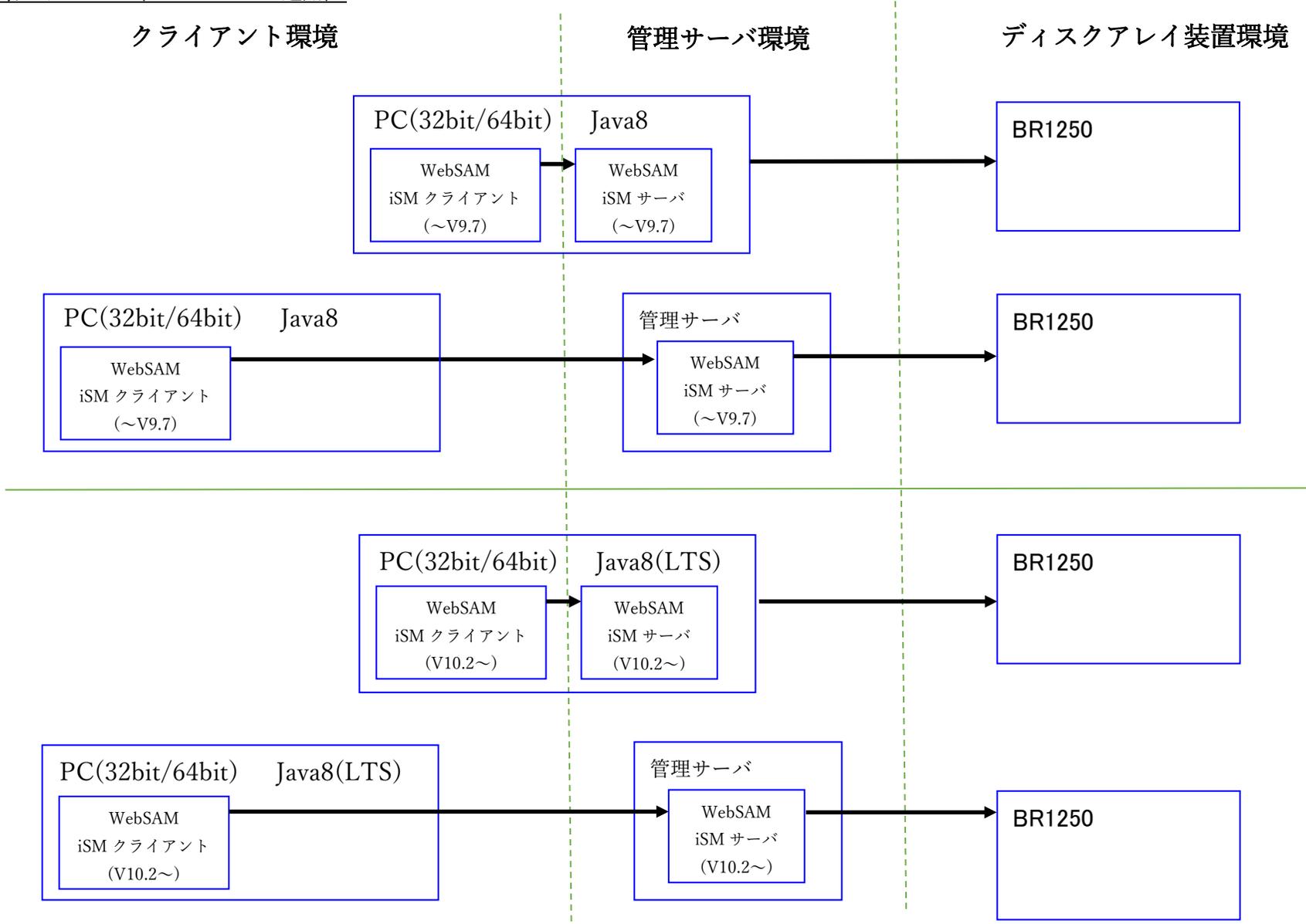
管理サーバ環境

ディスクアレイ装置環境

従来



変更後～

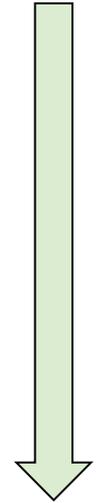


■Java11の導入イメージ (iSM Expressのみで運用)

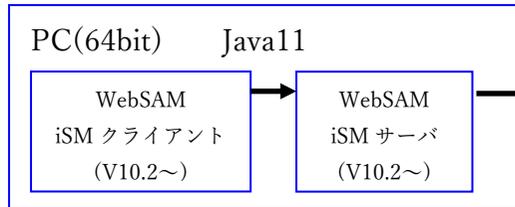
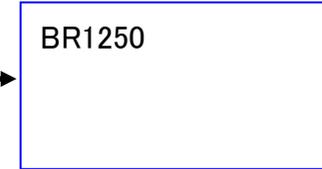
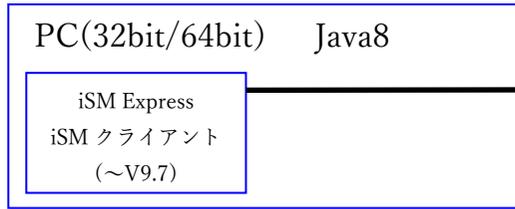
クライアント環境

ディスクアレイ装置環境

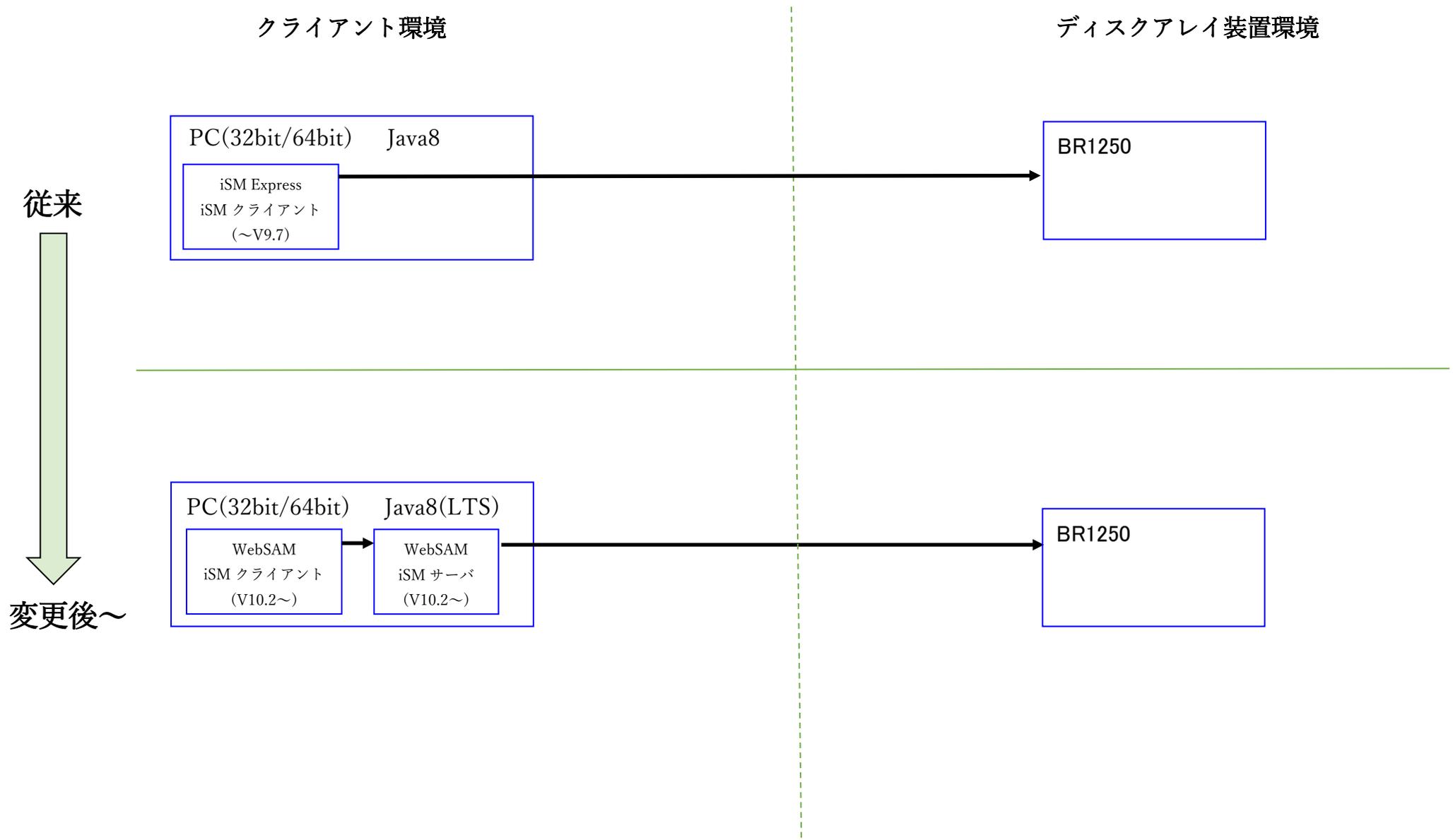
従来



変更後～



■Java8(LTS)の導入イメージ (iSM Express のみで運用)



■Java と iSM の提供方法について

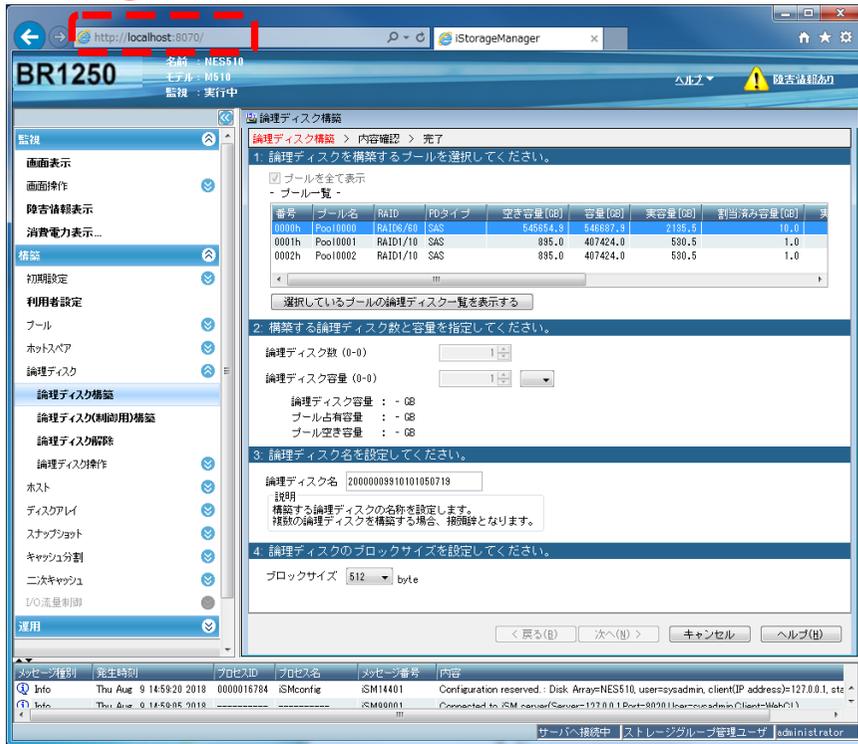
ソフトウェア	提供方法	導入方法
OpenJDK11 以降	<ul style="list-style-type: none"> •BR1250 のソフトウェア WebSAM iStorageManager Suite (V10.2 以降) の製品の媒体には、OpenJDK11 を添付します。 •WebSAM iStorageManager Suite (V10.2 以降) と合わせて、ダウンロードサイトにアップします。 •アップデートパッチはお客様にてご準備ください。 	<ul style="list-style-type: none"> •「WebSAM iStorageManager インストールガイド」に記載します。 •パッチの導入は、Oracle 社提示の方法に従ってください。
Java11 (LTS)	<ul style="list-style-type: none"> •提供しません。 •インストーラー、アップデートパッチは、お客様にてご準備ください。 	<ul style="list-style-type: none"> •Oracle 社のインストール手順に従い導入してください。
Java8 (LTS)	<ul style="list-style-type: none"> •提供しません。 •インストーラー、アップデートパッチを、お客様にてご準備ください。 	<ul style="list-style-type: none"> •Oracle 社のインストール手順に従い導入してください。
iSM サーバ V10.2 以降	<ul style="list-style-type: none"> •BR1250 のソフトウェア WebSAM iStorageManager Suite (V10.2 以降) の製品の媒体に付属 •ダウンロードサイトにアップします。 	<ul style="list-style-type: none"> •「WebSAM iStorageManager インストールガイド」に記載します。
iSM クライアント V10.2 以降	<ul style="list-style-type: none"> •BR1250 のソフトウェア WebSAM iStorageManager Suite (V10.2 以降) の製品の媒体に付属 •ダウンロードサイトにアップします。 •V10.2 以降の iSM サーバにブラウザを接続してダウンロード 	<ul style="list-style-type: none"> •「WebSAM iStorageManager インストールガイド」に記載します。

■ iSM クライアントの起動方法の変更について

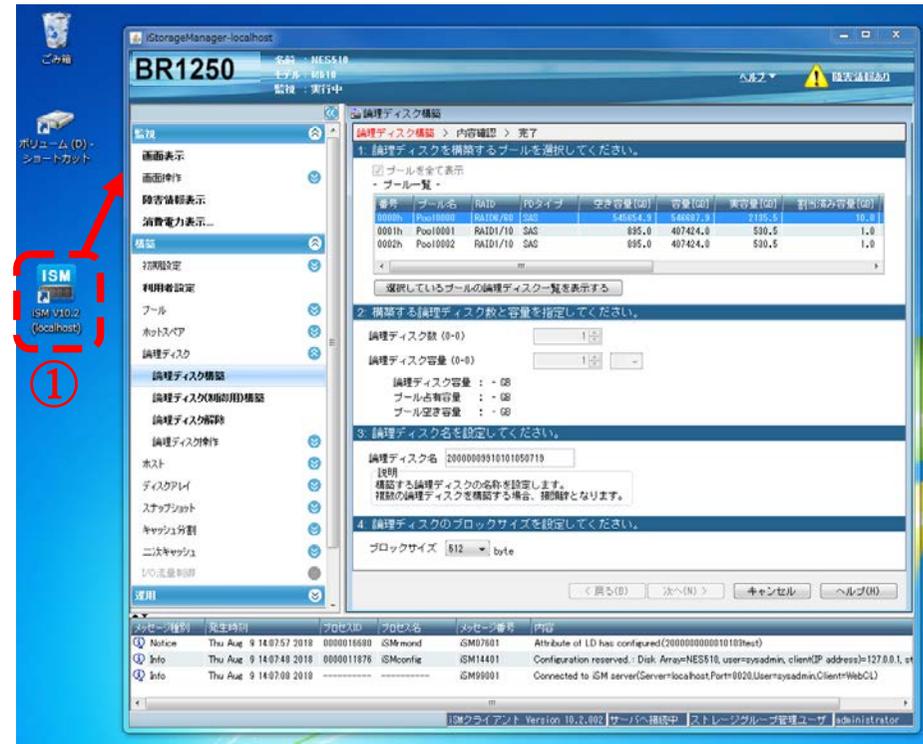
- iStoraManager の iSM クライアントの UI が変更となります（ [下記の①の部分] ）
- iSM クライアント V10.2 以降のインストール。iSM アイコンをクリックして起動し、iSM サーバと接続する形式となります。

①

従来



新 iSM クライアント 適用後



以上